フジの育て方(1) ―鉢植え―

種類

フジは，日本に２種，中国に１種，北アメリカに４種類野生しています。日本ではこのうち，ヤマフジとノダフジの２種の他，まれに中国産のシナフジが栽培されています。

品種

ヤマフジ系……白カピタン（花美短または甲比丹），紫カピタン，赤カピタン，アケボノカピタンなど。

ノダフジ系……長崎一歳フジ，野田一歳フジ，八重黒竜，九尺フジ，昭和白フジ，口紅フジ，本紅フジ，ニオイフジ，ニシキフジなど。

鉢植えの方法と管理（表，図1，２）

植え方……図１の要領で行います。

用　土……（例）赤玉土…６
腐葉土…４

元　肥……緩効性化学肥料を５～６号鉢で２～４ｇ用土に混ぜます。

灌　水……水切れさせないよう注意します。夏期は腰水を行ってもかまいません。

施　肥……６～８月の間，チッ素分は少なく，リン酸，カリ分の多い液肥を月に２～３回与えます。

剪　定……夏に伸びすぎたつるの先を軽く芯止めし，冬に花芽を確認しながら全体の形を整えます(図2)。

害　虫……マイマイガが春から夏に発生するので，適用のある殺虫剤を散布し，冬に卵塊を取り除きます。

病　気……こぶ病は幹や枝に発生する細菌性の病気です。コブを深くえぐり取り，適切な殺菌剤を塗り，２～３日後に上からつぎロウを塗ります

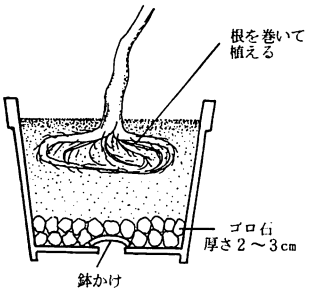

図１　鉢植えの仕方

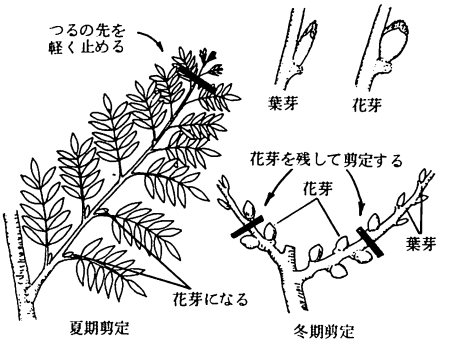

図２　剪定の仕方

表　鉢植えの年間管理

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育				芽出し	開花	つるの伸長		花芽分化		落葉		
植え付け 植え替え（3～4年に1回）			適期								適期	
剪定整枝	冬期剪定				花がら切り		ひこばえ，胴ふき切り取り	夏期剪定			冬期剪定	
施肥						月に2～3回液肥（例N：P：K＝12：16：16 1000倍液）						

広島市植物公園

フジの育て方(2)　—地植え—

植え場所

日当たり良く，極端に乾燥しない場所で，やや粘土質土壌が適します。また，つるが長く伸び，近くの庭木や建物にからみつくので，ある程度これらから離して植えたほうが良いでしょう。

仕立て方

棚作りと１本仕立て（立ち木仕立て）があります。

棚作り

苗……ノダフジ系の苗がよく使われます。また，フジ棚用の高接ぎ苗を使うとつるが早く棚上まで届くので，完成までの時間が短縮できます。

植え方……図１参照

仕立て方…先端の芽を力強く伸ばし，棚上まで誘引します。（芽が伸び始めたころに，薄い液肥を２回ほど与えます。）なお，高接ぎ苗を使用する時は，苗が倒れないようにシュロ縄などで棚の柱に固定します。

冬に，棚上まで届いたつるの中で太いものを主枝として一本残し，他のつるは切り除きます。

翌年の冬に，主枝から伸びたつるを誘引して図２のように枝配りをしていきます。

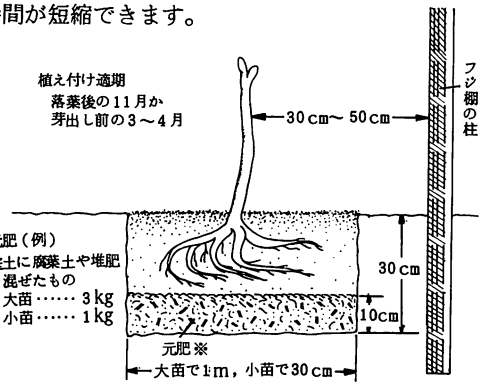

図１　地植えの仕方

一本仕立て（立ち木仕立て）

苗……ヤマフジ系で，幹の太い大苗が良いでしょう。

植え方……棚作りと同じですが，必らず倒れないように支柱をします。

仕立て方…伸びたつるを，冬の剪定時に添え木などをして曲げ，樹形を作ります。また，余分な枝（つる）は切り除きます。

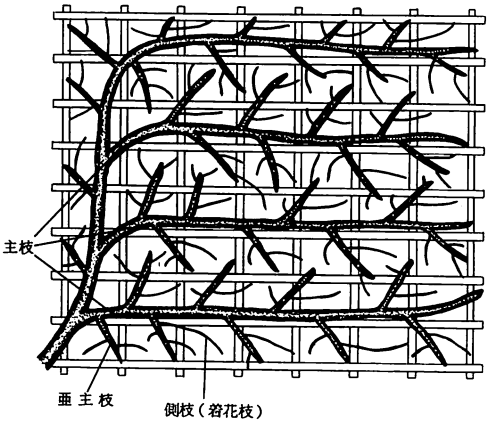

図２　枝の誘引の仕方

年間管理

鉢作りとほぼ同じですが，棚作りでは，老化して花芽の付きが悪くなった枝を若い枝に更新します。また，樹勢が弱い木や苗には，寒肥を，11月～１月に１回与えるとよいでしょう。

寒肥の与え方

根元から約1.5ｍ離れたところに穴か溝を掘り，その中へ腐葉土（堆肥），油カス，骨粉を土に混ぜて埋め戻します。　配合例……腐葉土（堆肥）：油カス：骨粉＝10：２：１